

◆海外トレッキング(北イタリアドロミテ岩群トレッキング)



山 行 日：6月24日(火)～7月1日(火)

参 加 者：L 瀬尾 SL 三木(悦) 井上 大石 大谷 河合 塩津 田羅間(易) 村上

6月24日(1日目)行録記録

6月23日 関西空港 22:30 発 - イスタンブール経由 - 6月24日 ミラノ・マルペンサ空港 10:00 着
専用車で南チロルの県都ボルツァーノへ 14:00 着 ツアー会社の澤山様と市内観光 - 19:00 夕食 -
21:00 ホテルへ



ボルツァーノへ

井上

“旅”は日常から解放されて、ワクワク、ハラハラ、ドキドキの感動の世界に誘ってくれます。車窓からは、何層もの荒々しい岩肌模様の岩峰、山裾には葡萄の段々畑が延々と続き素晴らしい光景でした。

14:00 落ち着いたドイツ文化の残るバルタ広場に面したホテルに到着。立派なドーモ、活気溢れるカフェ、マルシェ…等、すぐにイタリアンモードに浸りました。

オイデンツアーの澤山さんが、笑顔で迎えてくれました。爽やかな目の優しい美人、愛知県出身でドロミテの魅力にとりつかれてしまったそうです。(名前のオイデンとは、おいで～というニュアンス)約5300年前の冷凍ミイラ・アイスマンが保存されている考古学博物館見学。

凄い夕立が止むのを待って午後7時、お洒落なレストランへ。無事の到着と夢にみたドロミテ山塊そして素敵なお澤山さんとの出会いに 乾杯～!! ビールの美味しかったこと! イタリアン料理の美味しかったこと!! 長旅の疲れも吹っ飛び、10名のパーティーはすっかり打ち解けていました。

21:00 過ぎ ホテルに帰る。ドロミテ山塊に胸を膨らませ、おやすみなさい。

6月25日(2日目)行動記録

ホテル 8:00 発 8:10 - 9:00 ゴンドラ 9:20 ハイキング～13:00 山小屋着(昼食) 14:00 発～15:00
ゴンドラ - 街散策 16:00 バスと電車でホテルへ戻る 17:00 ホテル着



シウジ高原へハイキング

大石

ボルツァーノで朝を迎えました。いよいよドロミテハイキングの始まりです。

ワクワクしながら、バスに乗り込みました。山を縫うように走ります。ゴンドラに乗り換えて、シウジ高原に到着しました。

ここはスキー場で緑一色の草原に、さまざまな花が咲き乱れています。

“日本では見かけない花や”、“これは一緒だわ”と、思ったり。道はなだらかでとても歩きやすく、シアール山塊、サッソ・ピアット、サッソ・ルンゴの岩の屏風がどーんと構えています。ガスがかかって全貌は望めませんが、だからこそ風格があるように感じました。



途中の山小屋でランチです。バーベキュー料理をいただき、5時間半かけてたんまり散策できました。

帰りもバスと電車を乗り継ぎ、ボルツアーノに戻って来ました。イタリアのバス、電車は目新しく見るもの全て面白かったです。

夕食のレストランでハプニングがありましたが、大きなピザをみんなで分けて楽しく過ごし、明日からのハイキングに、期待を膨らませました。

6月26日(3日目)行動記録

チッタホテル発 8:35ーエルベ峠(10:35 着) 10:55 発ーバシヤラ小屋手前(13:05 着・昼食) 13:35 発ーバシヤラ小屋(13:37 着・トイレ休憩) 14:40 発ージェノバ小屋(2300m 15:40 着)



プエツ・オードレへ

大谷

今日は、山小屋泊りで、イタリアの山小屋はどんな風なのか、とても楽しみにしていた。

ボルツアーノのチッタホテルから専用車でエルベ峠まで移動。着いたところの山小屋でトイレを借り、ストレッチをして、いざ出発!!



素晴らしいお天気で、エルベ峠の入口のところに、おじいさん、おばあさんのペアの人形が迎えてくれて、これから先、どんな風景が待っているのかな?

スイスでもトレッキングルート、登山鉄道の途中に木で作った動物人形等を見かけて遊び心に思わず、にっこりしてしまう。

整備された道、林の中を歩いて行くと、一面小さな草花が咲いている。草原が現れて、まるでアルプスの少女ハイジになったような気分させてくれる。

それから、また歩いていると、ブータンのトレッキングで行ったようなところ、屋久島のもののけ姫の出てきそうな森、エベレスト街道を歩いた時の岩陵帯のある林に似ているなど、そんなことを思い出しながら歩いた。

青空の下、バシヤラ小屋の近くで、お昼のサンドイッチを食べ、小屋でトイレを借りた。

小屋で自家製に近いようなスペックというハムがおいしそうなので、重さを考えずに買ってしまった。

しかし、その後、急坂の峠越えが2回待っていて、ハムが重かった! 16時前に山小屋に着いた。

綺麗なロッジ風な山小屋だ! 夕食まで時間があつたので、小屋の外のテーブルで、ワインで乾杯をした。山小屋の食事の量の多さには驚いた。皆食べきれず、悪かったが残してしまった。

私が想像していた山小屋と少し違ってしたが、体験出来て良かった。

トレッキングに来ている人たちを見ていると、家族連れ、ペアが多く、日本ではほとんど見かけない父子のペアの仲の良さに思わず、微笑んでしまい、私自身も楽しくなって来ました。

6月27日(4日目)行動記録

朝食 7:00 - ジェノバ小屋 8:15 発ーオードレ山道入口(9:30 着) 9:40 発ー山小屋(11:10 着・昼食) 11:30 発ーカスナゴ小屋ーオードレ小屋(12:00 着・休憩) 13:00 発ーザンネス小屋 15:00 着 - チーズ工房(16:10 着) チーズ試食会 17:20 発ーホテルバスコ(18:25 着)



オードレの岩壁の麓を歩く

河合

“ボンジョルノー”と挨拶を交わし、ストレッチを見ていた登山客に拍手をして貰った。カウベルの音に見送られ、森林を抜けると、いよいよオードレの岩壁です。存在感があり、氷を切る鋸刃のような深い溝尾根、崩れ落ちた岩が土砂となりスカートのように広がる。その迫力ある岩壁の麓をトレッキングする。マウンテンバイクの若者、半ズボンにキャミソール姿の熟年男女、小屋は昼からビールで盛り上がり、アコーディオンに合わせて踊る年配のカップル。ここは世界自然遺産の懐、現実の世界なのだ。人々の自然との過ごし方があまりにも違う。怪我等の発生時、ヘリ出動は無料(国籍は無関係)とか。

山小屋やトイレが快適だった。牧草地の花々を敷物にしてランチを食たり、手造りの大きな木のオブジェや日光浴の長椅子で安らぐ。帰路、チーズ工房で7種類の試食をしたが



ニンニクチーズは臭くて困った。ミワチーズは青紫蘇の葉を貼り付けた日本人作。日頃、縁のないチーズとワインの文化を体験する。サプライズプレゼントに見せられた絵はがきの世界が絶えず脳裏に浮かぶ。

6月28日(5日目)行動記録

ホテル 9:00 発 - ポルドイ峠(10:00 着・ストレッチ) 10:10 発～フィール・デル・パン小屋(11:30 着・昼食) 12:00 発～フェダイア湖(13:40 着) 14:00 発 - ホテル(16:00 着)



マルモダーラを眺めてトレッキング

塩津

イタリアに着いて5日目の今朝は少し疲れが出てきたのか、天候が良くないせいか何となく体が少々だるい。昨日迄は天候に恵まれ素晴らしい風景に夢見心地のトレッキングを楽しんだのだが・・・持参していた自店の最高級のドリンクを飲んで皆に迷惑をかけないようにする。車で1時間程でポルドイ峠に着いた。マルモダーラの基点になっているのでとても人々が多くびっくりした！雨模様なので雨具をつけゆっくり登り始める。庭にとっても変わったバーのある小屋を通り抜け、右手に雄大なマルモダーラを見ながらトレッキングの途中、突然奇妙な集団に出会う。初めは幼稚園の遠足かなと思っていたら、出会うは出会うは老若男女が続々、おまけにおしゃぶりをくわえた赤ちゃん、ヨチヨチ歩きの幼児も、まるで1つの村の大移動のようだった。一体何の集団だったのか、イタリア語出来ず聞けなくて残念！！

1時間半程で2431mに建つフィール・デル・パン小屋に到着。ここでゆっくり各自日本から持参のレーション(カップ麺、各種アルファ米etc)で昼食をとる。庭のベンチに



座り皆で食べているとイタリア人の若者が大変珍しがって、しきりに写真を撮ってくれていた。日本のお菓子、お饅頭も試食してもらった。あちらは、老いも若きも殆んどペアなのだ。ウラヤマシイ！

美しい人造湖フェダイア湖が眼下に見え出した時には、歩いているこちらは晴れてきたが、対岸のマルモダーラは相変わらず雲がかかり全貌は見えない。万年雪のあるマルモダーラ、雲と雪の境目が判らない位だった。せめてロープウェイを乗り継いで行けるプンタロッカ（最高峰展望台）を望みたかったのだが・・・

帰途ワイン、チーズ、燻製ハム etc、の専門スーパーに寄り、皆お土産が買えてやれやれでした。

6月29日(6日目)行動記録

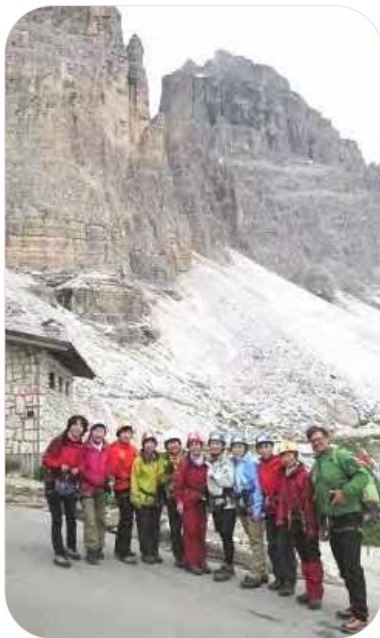
ホテル7:40 発 - ミズリーナ湖(1750m・8:55 着)9:05 発～アウロンツォ小屋(2320m・9:20 着)9:55 発～ラヴァレード小屋(10:20 着)～ラヴァレード峠(10:50 着)～上りトンネル～退避壕・折り返し点(12:10 着)～下りトンネル～ロカッテリ小屋(14:00 着・昼食)14:45 発～ラヴァレード峠(15:15 着)～ラヴァレード小屋(15:30 着)～アウロンツォ小屋(15:50 着)16:15 発～ヴェネツィア(20:00 着)近くで夕食・後ボートでホテルへ(21:30 着)



ヴィア・フェラータ

村上

いよいよドロミテ山行最終日ヴィア・フェラータ(今日のコースは第一次世界大戦時に掘られたトンネルを利用整備したコース)です。山々をめぐる霧があわただしく流れる中、ミズリーナ湖からアウロンツォ小屋へ到着です。



2人のアルパインガイドが出迎えてくれました。5名ずつ2班に別れハーネスにヘルメットを付け出発です。歩きながらオイデンツァーの澤山さんがアルパインガイドに“待つて”と“大丈夫”の日本語を教えていました。ラヴァレード峠を過ぎいよいよフェラータの始まりです。ガイドを先頭に5人ずつロープでつながり登ります。登りは後方のロープを持って登り、後者を引き上げます。途中、イタリア軍の掘ったいかにも荒削りの低いトンネルを抜けました。急な雪渓を登り、12人が入れる退避壕のような所で小休止。ガスが視界をさえぎり、風雨が強まっています。

アルパインガイドとリーダーの話し合いでモンテ・パテルノ山頂の途中ですが、下山が決まりました。

下りは前の人をロープをしっかりとって、カラビナを付けかえ、足場を決めながら岩場を下山です。眼下は雪の残る急な岩稜帯です。

危ない場面があったけど、皆が助け合って下りました。ロープで前後の人と繋がる怖さも味わいました。今までの山行では経験しなかった事ばかりです・・・オーストリア軍が3年がかりで掘った長いトンネル、それも段差の高い階段を下りて、雨の中、雪渓の間を登って、ロカッテリ小屋まで下りた時はほっとしました。皆が温かいカプチーノを飲み、ハンバーガーの昼食です。フェラータが無事終わった事を喜び合い、アウロンツォ小屋に向かいました。ドロミテの山々からみれば、日本の山は箱庭のように感じました。ここでお世話になった澤山さんとお別れです。

ヴェネツィアへは専用車で向かいましたが、到着する頃はどしゃぶりの雨でどうなる事かと心配しましたが、下車する直前小降りになり助かりました。長い一日でした。

6月30日(7日目)行動記録

ホテル 8:30 ガイドのミケラさんと会い市内観光へ ため息橋 - サンマルコ広場 - サンマルコ教会
見学 - ギンドラ乗船 - 12:30 昼食のレストランでミケラさんとお別れ 16 時まで自由行動ホテル
16:30 集合ボートで空港へ 19:20 発 - イスタンブール経由 - 7月1日関西空港 18:00 着



ヴェネツィア観光、帰国へ

田羅間

ヴェネツィアの街はまるで迷路だった。一般の観光客が行かない様な珍しい場所や、古い建物等を案内してもらう。ガイドの流暢な日本語、しかも驚いたのはイタリアの歴史に対応した日本の年代(これは日本では平安時代、鎌倉時代とか)等をよく知っていた。

移動はすべて徒歩か、舟のみ、ゴミの収集・商品の搬送などもすべて人力(カート)救急車ならぬ救急船など、橋もすべて階段の上り下り、高齢者は大変だろうと感じた。

私にとって初めてのヨーロッパだ。イタリアへ行く前に友人達から怖い所、そしてスリなどが多くうかうかできないと脅かされて参加したドロミテ山行だったが、思っていた程の事もなく過ぎた。青い空、緑とお花畑の丘、岩山は凄いとしか表現できない山々。日本では経験できない登山・散策すべてが最高でした。リーダーの瀬尾さん、会計の三木さん、その他参加の皆さんお世話になりました。本当にありがとうございました。



海外山行を終えて。

三木

何処も絵葉書の様な景色、美しい北イタリアのハイキングを満喫して来た。

ドロミテ地方、発祥のピア・フェラータも体験し、メンバーが大満足の海外山行だった。

反省点も幾つか挙げられた。大事なことは高御位山遊会で計画した海外山行である。その事を皆で再認識し次に繋げて行けたらと思う。



海外トレッキングを終えて

瀬尾

コーディネーターの澤山様が素敵なお方だったこと。良い天気にも恵まれて楽しい山行が出来たこと。最後にフェラータが出来て満足しています。

フェラータで指導して下さった現地ガイドから「基本的なことが出来ていない人がある。」と指摘された。このことを重く受け止めて、今後の山行に繋げたい。

◆地獄谷・荒地山(六甲山)



山 行 日 : 6月28日(土)

参 加 者 : コースL 砂川(延) L尾越 SL 和田 石田 竹内 平井 山本

行 動 記 録

場所	着	発
阪急芦屋川		8:58
公園 (ストレッチ)	9:03	9:11
高座の滝	9:32	
地獄谷	9:40	
ピラーロック	10:51	11:03
荒地山 (昼食)	11:31	11:54
荒地山頂上	12:15	
ストレッチ	13:53	13:59
高座の滝	14:06	
阪急芦屋川	14:30	



地獄谷～荒地山

平井

6月28日微妙な天気不安を抱えながら、自宅6時45分に出発しました。
六甲山登山のメッカ阪急芦屋川駅に、降り立つ。
今回は夏山集中～テント泊のトレーニング。石田さんのストレッチで体をほぐし、いざ出陣。
沢登りは私にとって初めての経験。不安でしたが、砂川さんの的確なアドバイスで不安を感じず、
すいすい登れ、心地よい水の感触、スリル、爽やかさに思わずのめり込みそうになりました。
沢のあとは、ロックガーデン奇岩奇石のミニアルプス。毎回不思議な光景と思いつつ、まだ気温も真夏よりましだ！頑張ろう！
荒地山頂上までは、登山道か獣道かわからない道を地図で確認しながら、頂上に向かった。
昼前、荒地山頂上（標高549m）到着、後は下りのみの言葉に、ほっとしたのもつかの間、
大きな岩が何個も重なった岩場を下るルートしかなく、生きて姫路に帰れるか？
聞けばこのルート登りは使ったことあるが、下りは初めてのルートとのこと。
リュックを下ろさないと通過出来ない岩場、足を踏みはずすとそのまま地獄に向かいそうな所とスリル満点の下りでした。
又、今回始めて山で野生の生きた動物（猪）に2度も出くわし、もし単独登山で凶暴な猪だったらと、冷や汗をかきました。でも次は山で野生の鹿を見たいとも思いました。
電車での帰りがけ三宮で途中下車。生ビールで乾杯！夏山集中山行の無事成功を願い、帰路に着きました。沢登り、岩登りでクライミングの楽しさを感じた山行でした。先輩の皆さま大変お世話になりました。今回の経験を踏まえスキルアップし、楽しく安全な山行きを広めたいと思います。

◆クライミング(アルプ)

山 行 日 : 6月29日(日)

参 加 者 : 大瀬 本多 和田



古法華の岩場

大瀬

高御位山遊会での開催は久しぶりででした。誰も居ない貸し切り岩にしがみ付き三点確保、ゆっくり体重移動、1つ1つ確認しながら、やさしい所から難しい所へ場所を移動して、最後はロープに助けられ良い汗を掻きました。



◆六甲山 再度山から洞川湖経由・高雄山



山 行 日 : 7月4日(金)

参 加 者 : L砂川(延) SL西口 狩集 平石 萬代

行 動 記 録 : 神戸駅 9:00 発～五宮神社(9:40 着) 9:55 発～二本松林道出合い(10:30 着) 10:35 発～七三峠(11:30 着) 11:35 発～鍋蓋山(11:55 着) 12:30 発～再度公園(12:50 着) 13:05 発～高雄山(13:43 着) 13:45 発～再度公園(14:25 着) 14:30 発～大龍寺(14:45 着) 15:00 発～堂徳山(15:30 着)～錨山(15:45 着)～諏訪山公園(16:05 着) 16:15 発～J R 元町駅(16:50 着)



鍋蓋山から再度山へ

萬代

週間天気では、ずっと雨の予報が続いており心配していましたが、前日に晴れの予報に変わり安心しました。当日は快晴でしたが暑すぎず、たまに心地よい風も吹きとても気持ちのいい気候となりました。

神戸駅から少し迷いながらゆっくり歩き、40分程で登山口に到着しました。前日の大雨で足元が悪くなっているかもしれないので、全員スパッツを装着し登り始めました。



登山口辺りでは廃屋がいくつかあり、電化製品や自転車などのゴミが散乱していたのが残念でしたが、それ以外はとても綺麗で、歩きやすい道ばかりでした。前日の大雨にもかかわらず、泥濘などはほとんどなく、地面や落ち葉が湿っている程度だったので、気持ち良く2時間程歩き、鍋蓋山山頂へ着き神戸市街地を見下ろす絶景を見ながらのお昼ご飯でした。その後、再度公園へ行き、休憩しました。大きな池には亀や鯉、小さな魚が泳いでおり、広々

としたとてもきれいな公園でした。平日の山行ということもあり人も少なく、公園では昼寝している人や散歩している人もおり、ゆっくりとした時間が流れているようでした。

普段はあまり立ち寄らないという、再度山にも挑戦しましたが、時間と体力(?)の都合もあり今回は途中までで断念しました。また、次回のお楽しみということで・・・。

今回の山行では、市章山、碓山のイカリのマークの横を通ったり、ビーナスブリッジや恋人の南京錠がたくさんかかっている所、絶景ポイントなどたくさんのお名所へ行き大満足でした。

会長、皆さんお世話になりました。色々教えて頂きありがとうございました。